

第二百十三回国会（常会）

令和六年度国土交通省関係予算概要説明

国土交通省

国土交通省関係の令和六年度予算につきまして、その概要を御説明申し上げます。

（令和六年度予算の計上額）

まず、一般会計予算の国費総額は、五兆九千五百三十七億円です。また、復興庁の東日本大震災復興特別会計に一括計上されている国土交通省関係予算の国費総額は、四百六十三億円です。

このほか、自動車安全特別会計及び財政投融资特別会計に、所要の予算を計上しております。

北海道、離島及び奄美群島に係る公共事業予算につきましては、他省関係予算を含め、国土交通省予算に所要額を一括計上しております。

財政投融资計画には、二兆七百八十九億円を計上しております。

（令和六年度予算の基本的な考え方）

次に、令和六年度予算の基本的な考え方を御説明申し上げます。我が国は、気候変動に伴う豪雨や大雪等の自然災害の激甚化・頻発化や新型コロナウイルス感染症対策の経験を踏まえた持続可能かつレジリエントな経済社会の構築、世界的な物価高騰や諸外国における金融引締め、地政学的な不確実性等による経済の下振れリスクへの対応、急速に進行する人口減少・少子高齢化への対応等、「時代の転換点」とも言える構造的な課題に直面しています。こうした状況に対応し、国民の命と暮らしを守り抜くとともに、構造的賃上げの実現、GX・DXの推進、デジタル田園都市国家構想の実現等による「新しい資本主義」の加速、こども・子育て政策の抜本的強化や、経済安全保障の推進、そして、国土の将来ビジョンである新たな国土形成計画に基づく「新時代に地域力をつなぐ国土」の実現を図ることが急務となっています。

こうした認識の下、令和六年度予算では、「国民の安全・安心の確保」、「持続的な経済成長の実現」及び「個性をいかした地域づくりと分散型国づくり」を三本柱として、令和五年度補正予算と合わせて、切れ目なく取組を進めてまいります。

この際、公共事業を適確に推進するため、資材価格の高騰等を踏まえて、必要な事業量を確保するとともに、新・担い手三法も踏まえ、施工時期等の平準化や適正価格・工期での契約、必要な変更契約等による適切な価格転嫁等を進めてまいります。

また、令和六年能登半島地震からの復旧・復興に全力を尽くしてまいります。

（令和六年度予算の主要事項）

それでは、各分野の主要事項を御説明申し上げます。

第一に、「国民の安全・安心の確保」についてです。

東日本大震災や令和六年能登半島地震をはじめとする大規模自然災害からの復旧・復興を図るとともに、「5か年加速化対策」をはじめ、国土強靱化の取組を強力に推進します。具体的には、切迫する大規模地震への対応、「流域治水」の加速化・強化と健全な水循環の維持・回復、広域的・戦略的なインフラマネジメントの視点も踏まえたインフラ老朽化対策の加速、災害時における物流・人流確保のための交通ネットワーク整備、線状降水帯、火山噴火等の観測・予測体制の強化に取り組みます。特に、5か年加速化対策後の国土強靱化の着実な推進に向け、改正国土強靱化基本法に基づき、施策の実施状況の調査など、「実施中期計画」の策定に向けた検討を進めます。加えて、令和六年度から厚生労働省より移管される水道行政について、上下水道一体で取り組む体制を構築し、効率化と基盤強化を図ります。このほか、運輸分野の各モードにおける総合的な安全・安心対策、通学路等の交通安全対策、海上保安能力の強

化、国民保護・総合的な防衛体制の強化等に資する公共インフラ整備に取り組みます。

第二に、「持続的な経済成長の実現」についてです。

住宅・建築物の省エネ対策や木材利用の促進、まちづくりGXを含むインフラの脱炭素化、国土交通分野のDX、造船・海運業の競争力強化、持続可能な観光の推進、地方空港の受入環境整備等に取り組むとともに、国内投資拡大・生産性向上等に資する社会資本の重点整備、地籍整備、インフラシステム海外展開等を積極的に進めます。加えて、物流や建設業に関する「二〇二四年問題」や、交通の各分野における人手不足への対応など、持続可能な産業の実現のため、賃上げによる処遇改善や人材育成、生産性の向上に取り組みます。

第三に、「個性をいかした地域づくりと分散型国づくり」についてです。

バリアフリー化の推進、二地域居住等の促進、離島や半島をはじめとする条件不利地域の振興、スマートシティ等の社会実装、次世代モビリティの普及促進、コンパクトでゆとりとにぎわいのあるまちづくり、交通のり・デザイン、多様な世帯が安心して暮らせる住まいの確保等に取り組みます。加えて、「こどもまんなかまちづくり」等を進めます。

(むすび)

以上、国土交通省関係の令和六年度予算について御説明申し上げます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。